

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

| | | | |
|----------|-----------------------------------|---------------|------|
| 機 関 名 | 東京農工大学 | 整理番号 | H01 |
| プログラム名称 | グリーン・クリーン食料生産を支える実践科学リーディング大学院の創設 | | |
| プログラム責任者 | 梅田 倫弘 | プログラムコーディネーター | 有江 力 |

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、5年一貫教育としてシームレスな戦略的教育を実践しており、博士後期課程へのステップとしての審査等のチェック機構も機能している。さらに、平成27年度に本プログラムを基盤とした新専攻「食料エネルギーシステム科学専攻」が創設されたことが評価される。今後、学長の強いリーダーシップの下で、食料・環境における優れた人材育成について、全教職員の理解を深め、メンター制度の機能強化、分散キャンパスにおける教育体制等への配慮が望まれる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、研究室ローテーション、イノベーション教育セミナー、キャリア開発プログラムなど多様な科目設定により、多角的視野から問題解決に当たる能力が醸成され、大きな教育目標の達成に貢献したと思われる。さらに、学外研修における成功体験がキャリアパスの構築に対し有効に機能し、アカデミア以外での選択肢の拡大も図られている。今後、学生や教員アンケートなどを行うことで、課題を把握して改善を図るだけでなく、教員、本プログラム学生（新専攻及び既存専攻所属）及び修了者のネットワークを確立するなどの努力が望まれる。

事業の定着・発展については、本プログラムを基盤とした新専攻の設置認可の過程で平成27年度にプログラム定員が半減したが、本プログラムを全学の大学院学生が履修可能とし、既存専攻からの学生受入れを開始することにより平成28年度には当初のプログラム定員に戻しており、引き続き個々の学生への充実した研究教育指導が期待される。新専攻の定員及びプログラム定員の充足を維持するに当たり、留学生を含む学内外の優秀な学生の確保についての検討が求められる。今後は、修了者のアフターケアにも大学が組織として取り組むとともに、本プログラムに直接的又は間接的に参画した教員においても意識改革・研究発展等に有用であったことを十分に自覚して、全学を挙げて恒常的な大学院教育改革へと高めていくことが期待される。さらに、学内資金及び民間資金を活用した学生への経済的支援に関する制度の確立とともに、学位の質保証だけでなくスケールメリットに留意することにより、食料生産・エネルギー利用において社会のリーダーとして活躍できる多数の人材の養成と輩出が期待される。